長崎新聞　平27年12月15日

長崎短大生 島おこしに一役

まんじゅう作りと茶道で触れ合い

佐世保市の黒島や高島の島おこしを研究している長崎短大（同市椎木町）国際コミュニケーション学科2年の10人がこのほど、実際に現地を視察し住民と接した上で島おこしに寄与するツアープランを提案しようと、2日間の日程で黒島に来島。地元特産の「ふくれまんじゅう」作りや茶席を通じて住民と触れ合った。

同短大が取り組む地域密着型学外学習「Awesome Saseboo!」事業の一環。学生は初日、地元住民の指導を受けながら「ふくれまんじゅう」作りに挑戦。ぎこちない手つきであんを包み、蒸し上がるとおいしそうに頬張った。

2日目は、黒島教会前の信徒会館で学生が茶道のお点前を披露。住民に和菓子と一緒に振る舞った。初めて抹茶を飲んだ市立黒島小4年の藤村一平君(9)は「苦かったけど礼儀作法がきれいだった」。地元の山下スヤ子さん(85)は「何度でも茶会を開いてもらいたい」と話した。

2年の木場由子さん(20)は「人の温かさも島の魅力。島外の人が黒島を満喫できるツアーを企画したい」と話した。

学生は来年2月に研究成果を同短大で発表する。

（永江倫子）

地元住民に教わりながらふくれまんじゅう作りを体験した学生ら
＝佐世保市黒島町

地元住民の前でお点前を披露する学生
＝佐世保市、信徒会館